

本科 7月17日(木)

第22・23回講座 「里山の保全論」

講師 金親 博榮氏 (NPO法人 ちば里山センター理事長)

日時 7月17日(木) 10:00~15:00

場所 谷当工房と周辺の里山 (千葉県若葉区谷当町)

テーマは、素晴らしい自然を育む、ちばの里山活動

梅雨明け間近で、曇の合間から夏の日射しが注ぐ中、千葉県若葉区谷当町の一角にある「わたしの田舎 谷当工房」において、金親博榮講師による「里山の保全論」の講座が行われた。会場となった谷当工房は、田んぼと周辺の里林そして湧き水の池など、素晴らしい里山環境の中にあり、ちば里山センターをはじめ、里山活動などに幅広く活躍される講師の自宅に隣接した活動拠点となっています。

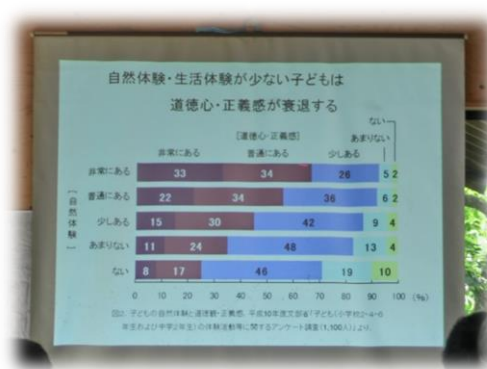
午前中の講義では、里山の変遷と今日の役割、そして里山の管理と活用方策などについて、講師の経験を踏まえた実践的な内容の講義となり、これから地域活動を目指すシニアの受講生にとって大変興味深い内容となった。

午後は、シニア自然大学の卒業生で谷当里山計画 NPOバランス21に参加されている二宮豊氏の案内で、耕作放棄されていた田んぼの復旧や湧き水の池の保全、竹林整備そして市民活動の場所として活用されるキャンプ場の整備など、谷当町の里山保全、再生、活用の現場を視察することが出来た。

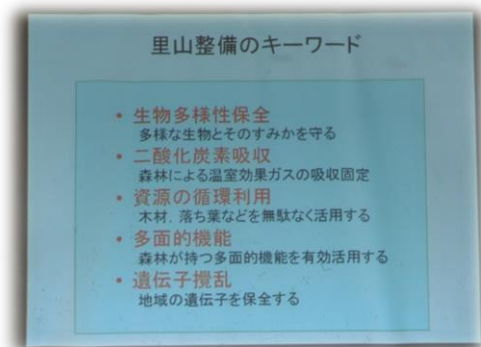
大切にしていきたい事、持続的な社会の一員として「できる人が、できる時に、できるだけやる」との里山活動を実践される金親講師の言葉が心に残った講座であった。



金親講師が里山活動の拠点とされる自宅ガレージを教室とした講座風景。



里山活動などを通して、自然体験・生活体験の必要性が説かれた。



里山整備の 5 つのキーワードを使い
その目的が紹介された。



里山情報バンクとしての「ちば里山セ
ンター」の活動内容が紹介された。



谷当工房での手打ち蕎麦の昼食を
終えて、午後は谷当町の里山視察と
なった。



耕作放棄地の田んぼを再生した
経緯を説明する二宮氏 (2 期生)



竹林の整備について説明する金
親講師。



キャンプ場では、第 12 回国際里山の
集い (留学生との交流会) の準備が進
められていました。